

校長室だより

For Our Children's Smiles



～ 子供たちの笑顔のために～



湖北小学校

第 25 号

3月11日発行

東日本大震災から15年

文責 加藤理巳

3.11・・・あの日を語り継ぐ——「命」と「絆」に生かされて

校長 加藤 理巳



HP

早いもので、未曾有の被害をもたらした東日本大震災から15年が経ちました。あの日、私は新木小学校で5年生の担任として教室におりました。たしか、今と同じように6年生と一緒に卒業式の練習をしていた時期だったと思います。午後教室で帰りの会をしていた時でした。今まで経験したことのない地震の激しい揺れの中、机の下で身を寄せ合う子供たちの震える背中をさすりながら、「何があってもこの子供たちの命だけは守り抜かなければならない」と、教師としての原点を心に刻んだことを、今も昨日のこのように思い出します。

～「当たり前」を支える地域の力～

震災直後の混乱の中、私を支えてくれたのは、当時の保護者や地域の皆様の姿でした。ご自身も不安な中、「先生、学校で手伝えることはありますか」と声をかけてくださったその温かさが、どれほど心強かったか計り知れません。今、本校では「放課後学習室イン湖北」をはじめ、多くの地域ボランティアの皆様に子供たちの学びを支えていただいています。また、PTA活動を中心に、保護者の皆様が日頃から子供たちの安全や学校環境のために多大なるご支援をくださっています。あの日、私たちが痛感した「人と人が手を取り合うことの大切さ」は、今、ここ湖北の地で、皆様の献身的な活動という形でしっかりと息づいています。学校が子供たちにとって「安心できる居場所」であり続けられるのは、皆様の支えがあってこそです。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。



奇跡の一本松(岩手県陸前高田市)



東日本大震災当時の我孫子市

～15年目の節目に——未来を創る子供たちへ～

災害はいつ、私たちの日常を脅かすかわかりません。だからこそ、私たちは「あの日」の教訓を風化させることなく、語り継いでいく義務があります。

「自分の命を自分で守る」力を育てること

困難な時に、誰かと手を取り合える「想像力」を持つこと

学校では、これらの力を育むために全力で取り組んでまいります。ご家庭におかれましても、この節目に「もしも」の時の避難場所や、命の尊さについて、ぜひお子様と言葉を交わしてみてください。

～共に歩む未来～

あの日、5年生だった私の教え子たちは、今や立派な社会人となり、それぞれの場所で未来を支える存在となっています。今、目の前にいる本校の子供たちもまた、10年後、20年後の未来を創る宝物です。

これからも、地域の皆様、保護者の皆様と手を携え、子供たちの健やかな成長と安全を守り続けていきたいと考えております。今後とも、変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。